

# 麦の穂

第56号

2016年3月  
特定非営利活動法人

麦の会

TEL&FAX

022-299-1279

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町 17-1

郵便振替口座 02200-8-46178

E-mail : muginokai@k5.dion.ne.jp

<http://www.muginokai-koppe.com>

## 目次

コッペの原点とは	飯嶋 茂	…1p
コッペで学んだこと	多々良 言水	…3p
娘の出産	樋口 和子	…4p
わくわく音楽会阿部	阿部 央希	…6p
新聞記事より		…7p
御礼	飯吉 正志人	…8p

## コッペの原点とは

飯嶋 茂

コッペが開業したのは、1988年12月8日。その1年前ぐらいだったろうか、いろいろな人が共に働く場を作りたいという呼びかけがあったのは。その呼びかけに賛同した人たちで話し合いを重ね、できるだけ安心な材料でパンとクッキーを作る、色々な人が共に働く場にする、この2点を大きな柱に、コッペは開業以来運営されてきた。

安心な材料とは具体的に言うと、東北産の小麦を使うこと、オーガニック等の素材の原材料を使うこと、添加物をできるだけ使わないこと、遺伝子組み換えをされていない原料をつかうことなどだ。その基本を守ってきたおかげで、新商品はあまり出ないし、季節のはやりものも出ないけど、根強いファンの皆様に支えられて商売している。昨年のJR仙台駅の販売会の時のエピソード。今は東京の大学に娘さんが行っているというお母さん。幼稚園のバザーでよくコッペのクッキーを買っていて娘も大好きだったので、是非東

京の娘さんにも送りたいと、たくさん買って下さいました。うれしいの一言でした。

もう一つの柱、「色々な人が共に働く場」ということは、今は障害のある人も多く働くようになり、障害のある人も共にがメインになっているが、当初の「色々な」には、もっと広い社会的に弱い立場にいる人と共にという意味合いが強かった。そもそもコッペをやりたいと言いだした言いだしっぺは、在日韓国人を支援する団体の人だった。色々な人が働くコッペをやることで、差別のない社会をつくりたい。その差別は、障害者差別にとどまらず、在日韓国人に対する差別、女性差別、ホームレスの人に対する差別、性的少数者の人に対する差別、部落差別等々、あらゆる差別をなくしていきたいということだ。

今年は、2016年。コッペ創業から28年。あと2年で30周年だ。

さて、コッペは何を残してきたのか。継続してきたこと自体たいしたことだが、当初の思いはどうなっているのか。差別に対するアンテナが弱くなっていないか。また、社会に対する働きかけもそうだが、共に働くの内実はどうなっているのか。障害のあるなしに関わらず、互いをどう尊重し、どう理解していけるのか。30年近くなってもあまり進歩がないような気がするの少しさみしい。

それでも当初3人から始まって、今は20人以上の人が働いている。売り上げも公的な補助金も、初めたころとは比べものにならないくらい大きくなった。

なにより30年近くコッペを続けてきたおかげで、地域の皆さんにも認められ、コッペに通ってくる障害当事者の姿も当たり前風景として街に根付いてきている。施設として特別な目で見られることなく、あそこのパン屋さんで働いている人として。障害者も地域の中で共に生きるということを社会に訴える、何よりの実践であろう。

先ほど大きくなったと書いたが、他に比べれば特に大きくはない。これからもコッペらしく多くの人に支えられながら、地道にパンとクッキーを焼いて売っていきたいと思う。

長年コッペで働いてくれた佐々木さんが諸事情でこの春コッペをやめることになりました。残念な思いでいっぱいですが、コッペの大変な日々を共に過ごしてくれたことにあらためて感謝します。ありがとう。

## コッペで学んだこと

多々良言水

コッペを卒業(?)してから早十数年が経ちました。当時、働くということもよく分からず、パンを捏ねてクッキーを型取りながら、中学生だった僕は学校に行かずコッペに通っていました。

はっきりとした理由もなくあまり好きではなかった学校を、ある日から不登校になりました。かといって何をする訳でもなく、ゲームばかりしていたのを見兼ねて、時間があるなら手伝ってこいと両親がコッペを紹介してくれました。

小さい頃から食べていたコッペのパンを、実際に自分で作るのは楽しかったです。アンパンやクリームパンの作り方は、今でも覚えています。少しずつ作業を覚えながら、役割を持たせてもらい、自信にもつながりました。学校に通わず、「中学生」という社会的な役割を放棄してしまった僕は、自分が何者でもなくなってしまったことに薄々と感付いていました。10代前半の僕はコッペに通うことで、学校に行かず何をしているの?という質問に「コッペで手伝いをしています」と答えることができました。家庭以外に社会との唯一の接点であり、同時に社会勉強の場であったコッペで働かせてもらったことを今でも感謝しています。

現在、震災支援を目的として2つの生協とホームレス支援のNPOで設立された共生地域創造財団という団体で働いています。石巻では被災から復活した殻付きカキの磨き方を作業とする就労訓練を行い、就労に困難を抱える10代から50代までの方々が就職を目指して参加しています。参加するすべての人が役割を持って仕事をできるように、また作業を通じて自信を付けてもらえるように試行錯誤を重ねています。コッペで学んだ経験を活かして、今後もさらによい職場をつくっていきたいと思っています。

経理担当の鳥海から一言です

今年の年賀状におめでとう報告があり

ました。今から十数年前、障害者

就労センター(千葉県幕張)で一緒で

した仲間が結婚・出産をされたとの事

でした。早速連絡をしてお母さんと話を

しました。とてもいい話でしたので、

会報に載せな事にしました。

樋口和子

今から四年前の冬に娘より「結婚したい人
に会ってほしい」と言われ、嬉しさよりも
きと心配。不安で頭の中が一杯になりました
ある方に相談したら「何でもアカン、
アカンと言ってマイナス思考ばかり言って娘
さんの運気を下げている。プラス思考
に切り換えて運気を上げてあげなさい。又、
共に寄って添ってもらえる人がいるといふこと
は、ありがたなことだし、相手の人に預ける
といふことは心配も半減するよ」と助言をい

に代き、なぜか目から鱗が落ちる思いでした。

今まで娘の運気も下げる事は、かりだした

ので、なにかと深く反省しました。

その後、相手の方にも合わせていただき結

婚に至り、一昨年には孫娘が誕生しました。

お産も女産で、案ずるより産むが易し、でし

た。

今は、障害者の家庭の子育てサポートをい

ろいろ利用させていただき育児に携わってい

ます。

今年の四月からは、障害者職業総合センター

にてお世話になってから就職させていただけい

ている所へ社会復帰します。仕事、子育て、

家事等、今まで以上に娘も忙しくなると思

いますが、親としてできるかぎり支援し娘家族

を見守っていきたいと思っております。

# わくわく音楽会

とても素晴らしいメロディーが

いい歌声は一番最高です。

演奏が流れてこれがわくわく

する気持ちがあるような云々

あります。やっ、とゆ、くりできると思っ

ています。音楽は一番歌、てくれる南部

さんが男のロックさずがいいメロディーに  
似合うこれがわくわく音楽会です。

来年は一人で君の所まで世界一の花を  
歌、てあげたいです。



昨年の夏の販売の時ににお会いした千葉県の飯吉さんから、毎年被災地の子どもたちに送っているプレゼントの内容の一つにコッペのクッキーも使いたいというお話があり、他の福祉の製品と一緒に送っていただきました。飯吉さんから報告とお礼のお手紙をいただきましたのでご覧ください。

こちらこそありがとうございました。(飯嶋)

御礼

コッペのみなさんへ

昨年末、被災地の子どもたちへのクリスマスプレゼントを提供する支援にご協力いただきありがとうございました。

お陰様で、福島県の「NPO 花見山を守る会」、宮城県の「宮城災対連・東日本大震災共同支援センター」を通じ、仮設住宅で生活されている子どもたちにお配り頂き（200個）沢山の感謝の言葉を頂戴しました。

このプレゼントには、みなさんが心をこめて作られたクッキーをはじめ、多くの福祉施設で作られた製品が入っています。

これからも美味しいパン・クッキーの販売を通じ、沢山の方々に喜びと幸せを伝えて頂ければと思います。

また、御礼のごあいさつが遅れた事をお詫び申し上げます。

今後とも宜しく願いいたします。

2016年2月15日

飯吉 正志人

\*一般社団法人 仙台建設業協会様より、5万円の寄付を頂きました。ありがとうございました。

\*新聞記事を載せた「ワタリス」さんとコッペをつないでくれたのは、今回原稿をよせてくれた多々良くんです。中学生の時にこき使った(?)少年が時を経てこんな出会いを作ってくれるとは。感慨もひとしおです。

\*「みんなの学校」のチケット、コッペも取り扱っています。

今回チラシを同封している映画「みんなの学校」ですが、5月8日の上映に向けて実行委員会で話し合いを重ねています。是非おいで下さい。

コッペでもチケットを取り扱っています。

飯嶋記